

ト、六月末滿港ニハ日給三十日分
給付ス

一、労働手當込ハ既リ準備アリシ
一、賃金三階以上アリシ
一、退可與一週(離職セ)ル

要求書 (原文ハマ)

ニテ二十二日午前式ハ要求書ニ提出シテ各自工費ニ懸掛シ
労働組合聯合ハ既入職工百匠十六名ハ會指圖ハ勤勤ニ據シテ最
モ労働手當日給ハ十日分發給昔年當日給ハ及日分ハ支給シ
テ退可與ニ據シテ暴行ハ既ヘシ、會指ハ退可與日ニ労働シ
及ハテ退可與ニ據シテ不適合ニテシテ及ハテ退可與ハ
労働ノ艱難中間中ニ勤ハ職工費ニ發給聯合ニ既照スル
片難火夫退可與一(縣同盟労働組合本部支派)ハ三月十日
弁論風因

福岡市労働組合大連支所

財團法人協調會大阪支所

ロ、一ケ年末滿者ニハ日給四十五日分

ハ、一ケ年以上ハ一ケ月ヲ増ス毎ニ二日分ヲ加算ノ事

一、日曜日祭日ニ就業スル場合ハ日給ノ二割増額アリタシ

一、公傷ニハ一週間以上休業ノ場合ハ日給ノ全額ヲ支給アリタシ

(從來ハ半額)

此ノ要求書ニ對スル回答ハ本月二十四日午前九時迄ニ回答相
成度候

大正十三年三月二十三日

職工一同

社長 松風嘉定殿

二十四日午前九時職工側委員宮幸雄、大和田卯三郎外四名ハ總同
盟京都聯合會國領吾一郎ト共ニ會社へ行ツテ社長ニ面會シテ要求
書ノ回答ヲ迫ツタ處社長ハ此ノ要求書ニ對シテ全部拒絶シタノデ
職工側ハ飽ク迄要求ヲ貫徹センガ爲メ日本總同盟京都聯合會ノ應